

立命館大学国際平和ミュージアム貸出教材キット・パネル運用報告 (2012～2014年度)

岸本 菜穂 美

(立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

はじめに

1990年代はじめに学校教育現場において、「新しい学力観」が叫ばれるようになり、1998（平成10）年告示の『学習指導要領』に基づき2002（平成14）年から創設された「総合的な学習の時間」への援助の場として、博物館をはじめとした生涯学習施設と学校現場の連携が意識されるようになった。

1999（平成11）年6月に「独立行政法人通則法」が衆議院で可決され、国立博物館の法人化の動きが始まり、生涯学習施設の一つである博物館でも、自館の運営経費を独自に賄う必要性が出てきた。当時の博物館は、公立館を中心に予算が厳しく、館としての存在意義を問い直すことを迫られると同時に、これまでの社会見学・修学旅行等で「立ち寄り場」から、一歩踏み込んだ「学びがいのある」施設として各館の特色を今まで以上にアピールすることも必要になってきた。

博物館教育のツールとして、館内・館外での利用を目的とした「貸出教材」が注目されてきた背景にもそういった流れが少なからず影響していると思われる。

毎年の来館者数の約6割を学校団体が占める立命館大学国際平和ミュージアムでも^{注1)}、アウトリーチ教材として教材キットの開発が検討され、2011（平成23）

年より立命館学園の現役教員を中心とした協力教員の力を借り、本格的な開発が始められた。学校見学会や研究会などでのプロトタイプの試行や発表を経て、貸出教材キット2種（一五年戦争（慰問袋）キット、現代（さいころくん）キット）・貸出パネル（原子力と私たちの生活）1種の運用が開始された。

本報告は、この教材キット・パネルの約3年間の運用状況を中心に、貸出先より集めたアンケートをはじめ、現場教員からの聞き取り内容などをもとに、館が取り組んだ運用方法の改善や今後の課題についてまとめたものである。

1. 開発の経緯

立命館大学国際平和ミュージアムでは、前述したような、学校団体との連携ツールとして2012（平成24）年から貸出教材キット2種（一五年戦争（慰問袋）キット、現代（さいころくん）キット）・貸出パネル（原子力と私たちの生活）1種の運用を開始した。

貸出教材キット・パネルの運用開始以前にも、平和ミュージアムでは、教育普及活動の一環として一般市民向けに、「平和」をテーマにしたパネルや収蔵資料の貸出を行ってきた。

表1 貸出パネル（教材キット・パネル以外）一覧

	パネル名	制作年	内容	発行元・製作
1	原子爆弾：広島・長崎の記録	—	広島・長崎原爆	製作：子どもたちに、世界に！被爆の記録を贈る会／平和博物館を創る会
2	原爆と人間展	1997	広島・長崎原爆	製作：日本原水爆被害者団体協議会
3	沖縄戦と基地	2000	沖縄・基地問題	あけぼの出版
4	森住卓フォト・レポート「イラク、戦争と子どもたち」	2003	イラク戦争	森住卓
5	井戸も掘る医者：ペシャワール会の医療活動・緑の大地活動	2003	アフガニスタン内戦	立命館大学国際平和ミュージアム
6	放射能と人類の未来	2012	放射能	立命館大学国際平和ミュージアム

*このほか、2011年度のみ『安齋名誉館長 福島原爆被災地に行く』パネルの貸出を実施。

主な貸出先は地方公共団体で、利用目的としては7、8月を中心に開催される、戦争や平和に関するイベント内で展示するものが主である。年度ごとに貸出予約は4月から受付を開始するが、貸出希望時期が集中するため、毎年貸出を希望する「慣れた」団体は、受付開始と同時に希望のパネル（昨年度又は今までに借りたパネル以外のものなど）を予約してくる。館としても展示やその他イベントが多い繁忙期（7～9月）はパネルについても貸出・返却作業に追われることになる。これらのパネルが平和学習をはじめとした授業や、学校内での展示等で学校団体に利用された実績はあるが、その数は多いものではなかった。

表2 貸出パネル（貸出教材キット・パネル以外）
利用状況（2010年度～2014年度）

年度	貸出先 件数	貸出先内訳					パネル 件数
		保育園	小学校	中学校	高校	教育機 関以外	
2010	18	0	0	2	0	16	19
2011	19	0	0	1	1	17	20
2012	11	0	0	0	0	11	12
2013	14	1	1	0	1	11	16
2014	17	0	1	0	1	15	18

※2011年度のみ『安齋名誉館長福島原発被災地に行く』パネルの貸出を8件行った。

※2014年度は2014年12月31日までの利用状況

※貸出先件数とパネル件数の数に相違があるのは、1団体に複数パネルを貸出している場合があるため。

※同じ団体に年度内に2回以上の貸出もあり。1回＝1件、2回＝2件…でカウント

2. 開発目標

開発の目標として、学校教育の場で、実物資料（又は複製）を見て、実際に触れることで、授業をサポートし、学校とミュージアムを繋ぐツールとして、ミュージアム見学の事前・事後学習や平和学習の中で役立つ内容となることを目指した。

教材キットについての分類の方法は一つではないが、大きく①展示を見学する際の補助的役割を担い、来館時利用可能なもの、②来館前・後に貸出利用が可能な館外利用に分けられ、当館では、館外利用を目的としたキットを開発することとした。

3. 開発内容として目指したこと

開発するキットの内容については、主として次の要件を満たすことを目指した。

- (1) 事前・事後学習といった、ミュージアム見学と組み合わせた利用時の「学びの深まり」を考え、ミ

ュージアムの常設展示に即した内容とする。

- (2) 実物資料や複製資料を用いて、ハンズ・オン資料を中心とした内容にする。
- (3) 教科教育や学年の枠にとどまらない汎用性が高い内容とする。
- (4) 学習指導要領に沿った授業案やワークシートを付ける。
- (5) 貸出・返却については、来館が不可能な場合は着払いにて送付可能な重量・大きさにする。
- (6) 貸出対象としては、小中高校といった学校団体を中心に据えているが、地方公共団体への貸出も可能とする。

この他、①利用者にはアンケートへの回答を求め、その分析から、キットの問題点・改善すべき点を把握すること、②同梱する資料として特別展やイベント等のチラシ類をはじめとしたミュージアムへの見学誘致のための広報情報も含むこととし、開発が始められた。

開発にあたっては、国立民族学博物館が運用する「みんなぱっく」や、昭和館、長崎市が行っている被災資料の貸出内容などを取材し、実物または内容などの調査を行った。

4. 開発メンバー

監修 片岡徹（北星学園大学）、
安齋育郎（平和ミュージアム名誉館長）

制作 立命館大学国際平和ミュージアム

協力 本庄豊、篠原貴明、杉浦真理（立命館宇治中学高等学校教諭）、山口太一（立命館慶祥中学高等学校教諭）、平井美津子（立命館大学非常勤講師 吹田市立第一中学校教諭）

所属は2011年当時のもの

5. 開発キットの種類

- (1) 一五年戦争（慰問袋）キット



画像1 一五年戦争（慰問袋）キット内容（一部）

戦時中、銃後の人々が兵士へ送った慰問袋とその中身を通して、戦争の実態や当時の社会の様子を知り、平和の大切さについて考えることを目的として開発。

内容：慰問袋、キャラメル空き箱、皇軍慰問将棋、皇軍慰問裁縫セット、陣中占い、慰問文、慰問文の書き方などの歴史資料の複製と資料解説カードなどが入っている。1セット。

授業案、ワークシート付（小学校6年生社会科向）。

(2) 現代（さいころくん）キット



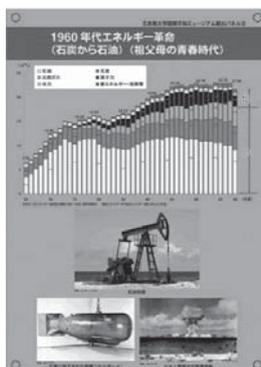
画像2 現代（さいころくん）キット内容（一部）

私たちの平和な暮らしを阻むさまざまな現実を目を向けながら、その構造を知り、平和な地球社会を築くため、子どもたちにも「できること」を見つけるヒントとなることを目的として開発。

ミュージアム常設展示でも人気のある、現代社会の諸問題を示唆するデータを紹介している「さいころくん」を組立て式にしたもの。最大5セット貸出可能。内容：テーマ別カード12種、組み立て用パネル12×必要セット（最大5セット）、さいころくん（販売用）などが入っている。

授業案、ワークシート、パワーポイントデータ付（小学校高学年社会科～中学生地理向）

(3) 「原子力と私たちの生活」パネル



画像3 「原子力と私たちの生活」パネル（一部）

東日本大震災以降、注目されている日本のエネルギー問題について、原子力を含めたさまざまなエネルギーと、その利用について紹介する内容を目指して開発。

内容：さまざまな図表イラストによって、核兵器と原発という核エネルギーの異なる利用方法を一度に理解できるパネル6枚と、放射線防護学の研究者である安斎育郎名誉館長によるわかりやすい解説DVD付。

理科でも、社会科でも、エネルギーの未来を考える素材として利用可能。授業案なし。

6. 利用状況

表3 キット別貸出数（1団体に複数のキットを貸出している場合もあり）

キット・パネル名	2014年度 (4～12月)	2013年度	2012年度	運用開始
現代(さいころくん)	17	4	1	2012年 5月19日
一五年戦争(慰問袋)	14	6	2	2012年 5月19日
原子力と私たちの生活	6	3	1	2012年 6月30日
合計	37	13	4	

表4 貸出先所在地

	2014年度 (4～12月)	2013年度	2012年度
京都市内	2	3	0
京都府	3	2	1
附属校	1	2	1
大阪府	7	2	0
その他	9 滋賀(1)兵庫(4) 三重(1)岐阜(1) 神奈川(1)東京(1)	4 群馬(1)三重(1) 愛知(1)埼玉(1)	2 千葉(2)
合計	22	13	4

2012年度その他については、教材開発協力教員が参加した研究会に2セット貸出

2014年度（1団体に2回貸出あり）

(1) 貸出件数の推移

表3を見てわかるように、運用を開始した2012年度の利用数は4件で利用者の声を集めて改善材料を把握することが難しい状況となったため、2013年度は学校団体を対象に、授業での利用とアンケート回答を条件とし、往復の送料を無料とし、ホームページやチラシ、下見見学会などで広報を行ったところ、13件と貸出件数が増えた。2014年度も利用促進と利用状況把握を目的として、引き続き同条件にて送料をミュージアムが負担することとしたところ、遠方をはじめ、前年度よりもさらに貸出件数が増加する結果となった（表4参照）。

表5 貸出先内訳 (1団体に複数のキットを貸出している場合もあり。複数の科目で利用あり。)

キット・パネル名	教育機関											教育機関以外	
	小学校	利用科目	中学校	利用科目	高校	利用科目	専門学校	利用科目	大学	利用科目	その他		利用科目
現代 (さいころくん)	5	総合(4) 社会(2) 道徳(2) 国語(1) その他 (1)※1	5	総合(4) 地理(1) その他 (1)※2	2	その他 (2)			1	教職課程(1)	1	「平和 と憲法」 (1)	3
一五年戦争 (慰問袋)	5	総合(4) 社会(2) 道徳(2) 国語(1) その他 (1)※1	5	総合(3) 歴史(2)	2	その他 (2)					1	「平和 と憲法」 (1)	1
原子力と私たちの生活			2	理科(1)	1	その他 (1)	1	憲法学 (1)	1	教職課程(1)			1
合計	10		12		5		1		2		2		5

※1、※2・・・教員の教材研究

(2) 利用内容 (授業科目の特徴など)

表5の通り、2014年度の利用状況では、「総合的な学習」の時間での利用が多く、次いで「社会」、「歴史」、「道徳」と続く。「国語」や「理科」といった科目や、大学の教職員課程での教材開発の講義などにも利用された。また、利用時間数については1～2時間(授業時間)が多数だが、複数の授業で利用されるケースや、6時間(授業時間)利用した学校もあった。(81頁【表7】参照)

(3) 事前学習での取り組み

今年度の利用内容で特徴的だったのが、事前学習としてキットを利用した学校が複数あったことがあげられる。そのうちの1校である神奈川県公立の中学校は、5月中旬に予定された修学旅行での見学施設の一つとしてミュージアムを選び、4月中旬から全キット・パネルを利用しての事前学習に取り組んだ。

事前に当館のホームページで教材キット・パネルについて下調べをした教員が下見見学時に実際のキットを確認、貸出を希望した。

見学当日の聞き取りでこの教員は、自らの実践経験として「事前学習を行うと子ども達の意欲が違う」ことを知っていたため、今回の修学旅行の目的の中に平和学習を盛り込み、「事前学習を通して自分の学習の課題を見つけること」を掲げた取り組みだったと語った。

事前学習に利用した他の学校では、教員が教材研究のために全キット・パネルの貸出を希望し、その後授業時に再度貸出を行ったケースもあり、ミュージアムにとって事前学習でキットを利用する学校の、充実した「見学時間」を子ども達に与えたいと望む姿勢が感じ取られた。

7. キット利用の有効度

表6 貸出教材キット・パネルアンケート項目

問	内容
①	利用キット・パネル名
②	知った動機
③	授業科目、授業時間(コマ数)
④	授業に有効だと思うか?
⑤	付属資料の授業案、ワークシート、スライド(CD)は参考になったか?
⑥	付属資料の授業案、ワークシート、スライド(CD)を利用したか?
⑦	自身で制作された授業案や、ワークシートなどの提供について
⑧	⑦で「提供してもよい」と答えられた方対象(ミュージアムのHP等で、公開してよいか?)
⑨	今後希望する貸出教材キット・パネルの内容について
⑩	アンケート回答者について

表7の2014年度のアンケート(部分)では、問④の「授業に有効だと思うか?」という質問に対し、22件中20件が「思う」と回答。

その理由としては主として以下のものがあげられている。

1. 一五年戦争(慰問袋)キット

- ①実物を直接触れられる。
- ②教科書、テレビ、新聞等、子ども達が調べようとする身近なものからはなかなか得られない情報が多い。

2. 現代(さいころくん)キット

- ①生徒の興味を持った授業参加が期待できる。

表7 2014年度「貸出教材キット」アンケート(部分)

貸出先 (学校・都道府県)		問① キット・ パネル名	問② 知った 動機	問③ 授業科目	問④ 授業 時間	問④ 授業に有効だと思うか?	問⑤ 授業案、ワークシート等は参考にな ったか?	問⑥ 授業案
1	市立中学校 神奈川	さいこ ろくん	HPを 見て	総合		思う	参考になった	利用
2	市立中学校 神奈川	慰問袋	HPを 見て	総合	1時間	思う 【理由】 実物を直接触れられる。	参考になった 【理由】 授業をスムーズに行うこと が出来た。	利用
3	市立中学校 神奈川	原子力 と私た ちの生 活	HPを 見て	理科	2時間	思う 【理由】 エネルギー資源の利用とも関 連づけられる。	参考になった 【理由】 掲示しやすく、まとめ方が よいので。	半々ぐら いでやっ てみた
4	市立中学校 京都	さいこ ろくん	下見 見学	総合	1時間	思う 【理由】 生徒の関心が高い	参考になった	利用
5	市立中学校 大阪	慰問袋	HPを 見て	歴史	1時間	思う 【理由】 当時の人々の様子がわかる	参考になった 【理由】 自分自身で考える時間がな かなかないので	利用
6	市立小学校 大阪	さいこ ろくん 慰問袋	下見 見学	総合	2~3 時間	思う 【理由】 児童が楽しみながら学習でき たから	参考になった	利用
7	区立中学校 東京	慰問袋	修学旅 行で ミュー ジアム に見学 に来て	歴史	1時間	思う 【理由】 実物に近いものだったので、 生徒が大変興味を持った。実際に触れ るところが良い。	参考にならなかった 【理由】 中学生なので(注:ワークシ ートは6年生対象)	
8	専門学校 京都	原子力 と私た ちの生 活	下見 見学	憲法学	90分	思う 【理由】 パネルが丈夫で美しい。	参考になった 【理由】 DVDが要領よくまとめられ ていた。	
9	市立小学校 大阪	慰問袋 さいこ ろくん	他校の 教員	国語、社会	6時間	思う 【理由】 具体物があると、子どもの反 応が全然ちがう!	参考になった 【理由】 指導案がすごくわかりやす かった	利用
10	市立中学校 兵庫	慰問袋	下見 見学	総合	1時間	思う 【理由】 校外学習への意識づけの為、 興味を持たせられる。	中学2年生には「さいころくん」を 利用しようと思った。	利用せず
11	市立中学校 兵庫	さいこ ろくん	下見 見学	授業研究の 為(総合ま たは社会)	1時間	思う 【理由】 生徒の興味を持った授業参加 が期待できる		利用せず
12	府立高等学校 京都	慰問袋	他校の 図書館 司書	図書館内で 展示		思う		利用せず
13	府立高等学校 大阪	慰問袋	HPを 見て	文化祭での 教員有志企 画として利 用		思わない 【理由】 一五年戦争それ自体について 生徒は知らないで、かなり補足的説明 を要する。		利用せず
14	府立高等学校 大阪	さいこ ろくん	HPを 見て	文化祭での 教員有志企 画として利 用		思う 【理由】 自ら考え調べる手がかりにな る	参考にならなかった 【理由】 もう少し詳細な具体的なデー タを望む	利用
15	府立高等学校 大阪	原子力 と私た ちの生 活	HPを 見て	文化祭での 教員有志企 画として利 用		思う	参考になった	利用せず
16	市立小学校 大阪	さいこ ろくん	HPを 見て	テーマ「平 和と憲法」	1時間	思う 【理由】 考えるためのヒントになる。 補足資料がついていて使いやすい	参考になった 【理由】 スライドのCDを一部学習に 取り込んだ	参考に した
17	市立小学校 大阪	慰問袋 さいこ ろくん	HPを 見て	テーマ「平 和と憲法」	1時間	思う 【理由】 具体的にわかりやすい	参考になった 【理由】 取り入れた	利用
18	市立小学校 京都	慰問袋 さいこ ろくん	下見 見学	総合的な学 習	2時間	思う 【理由】 教科書、テレビ、新聞等、子 ども達が調べようとする身近なものか らはなかなか得られない情報が多い為		利用せず
19	市立小学校 兵庫	慰問袋 さいこ ろくん	下見 見学	総合的な学 習、道徳	2時間	思う 【理由】 有効です。特にさいころくんは、 常に展示し、触れながら、世界の様々 な問題に興味をもつきっかけとなりま した。	参考にならなかった	利用せず
20	市立中学校 滋賀	さいこ ろくん	下見 見学	総合的な時 間	1時間	思わない 【理由】 借用時間が短かった為、教師(6 クラスの担任がそれぞれ授業をしたが 内容を消化している時間がなく、さい ころくんを2つ使って共通の課題を見つ ける等がうまく使いこなせなかった。	参考になった 【理由】 さいころはうまく使えなかつ たが、話をするのは内容はとても 大切なことで、興味を持たせること は出来た。	利用
21	市立中学校 兵庫	慰問袋	下見 見学	総合的な時 間	1時間	思う 【理由】 思うが、そもそも「慰問袋と は何か」とか「慰問とは何か」につ いてまず説明をしなければならず、1時 間だけでいろいろ考えさせるのは難し い。もっと時間をかけられればよいの だが。	参考になった	利用
22	市立中学校 兵庫	さいこ ろくん	下見 見学	地理	2時間	思う 【理由】 サイコロを使っているので、 生徒の食い付きが良い。	参考になった	利用

立命館大学 国際平和ミュージアム
Kyoto Museum For World Peace, Ritsumeikan University
みて・かんして・かんがえて・その一歩をふみだそう

日本語・English・中文・ 한국어

ご挨拶・観覧 利用案内 イベント・展示 館内紹介 資料検索 刊行物 販売物

資料検索

さいこらくんキット活用例の紹介④-1

ホーム > 資料検索 > 教材キット&パネル貸出 > 教材キットと「原子力と私たちの生活」パネル > さいこらくんキット活用例の紹介④-1

さいこらくんキット活用例の紹介④-1 (2014年8月19日掲載)

南足柄市立足柄台中学校 (神奈川県)	
利用キット	さいこらくん
授業担当	学校教員 (学級担任)
利用日	2014年4月 (1時間)
利用科目	総合
利用対象	3年
利用目的 (学習目標)	現在の私たちの周りには平和な暮らしを阻むさまざまな現実がある。そこに目を向けながら、その構造を知ることで、平和な地球社会を築くため、子どもたちにもできることを見つけるヒントをつかむこと。
利用者の声	この授業の後、給食の食べ残しが減った。

詳しくはこちらをダウンロード
(提供いただいた学校名、ワークシートを掲載しています。)

画像 4 6.(3)で紹介した神奈川県の公立中学校の活用例

②常に展示し、触れながら、世界の様々な問題に興味をもつきっかけとなる。

3. 「原子力と私たちの生活」パネル

①エネルギー資源の利用とも関連づけられる。

以上のことから教科書だけでは伝わりにくいモノやコトをキットやパネルが補え、特に一五年戦争(慰問袋)キットに関しては、過去と現在を「つなぐ」手段としての利用価値が大きいと考えられる。

問⑤の授業案やワークシートについては、利用しなかったケースも見られるが、貸出先の半数以上が授業案については「参考になった」と回答し、ワークシートについては利用が少なかった。ワークシートの対象学年が違うため利用ができなかった、使い方が難しいと感じられた可能性もあり、今後調査・改善の余地があることがわかった。

8. 活用例の紹介

ミュージアムでの取組みの報告として、またこれからキット・パネルの借出を検討いただく学校団体にむけて、活用例をミュージアムホームページにて、年間3事例を掲載することを目標とした。アンケート回答

から、ミュージアムより学校側に掲載への協力許可を得た上で作業を進め、学校側の校正済のものを掲載している。

2014年度は、事前授業で利用いただいた学校を中心に報告することとし、授業の様子、学級新聞、利用したワークシートなどもあれば掲載している。

9. 今後の課題

以上のように、運用開始から約3年近く経過したキット・パネルの運用状況を報告してきたが、今後の課題として以下のことを検討し、その解決に取り組む必要があると考える。

(1) リサーチ

ミュージアムから活用現場へのリサーチが実施されていない。新しいキットの開発や、運用中のキット・パネルの改善には、開発に関係する担当者や協力教員を含め、キットが実際に利用されている状況調査を重ね、生きた改善につなげることが不可欠だろう。しかし、現状では、貸出教材キット・パネルの活用を含む博物館教育や平和教育などを専門とする「研究者」は不在であり、これら研究者や教員の確保が望まれる。また、現状ではこれらキット・パネルや、その他のパネルを含む貸出に関する事務的な作業を一括担当する職員の主な業務は別にあるため、その業務負担も小さくはない。キット・パネルを増やす状況に向かうには、種々の人材確保が必要だろう。また、リサーチ件数の確保のため、この2年間行ってきた、授業利用でのアンケート回答を条件とした配送料負担を継続することも必要だろう。

(2) 新しいキットの開発と従来のキットの改善

これまでの運用の中で、1セットしかない一五年戦争(慰問袋)キットに関しては、貸出希望団体が同時期に重なり、貸出をお断りするケースが少なくなかった。現在の慰問袋キットの内容物については、ミュージアムの収蔵資料を複製したもののだが、ほとんどが職員や学生アルバイトスタッフの手作業で制作したものであり、量産が難しい。これに対応するために、現在、キットの複数化を目指し、ネットオークションや骨董市などで消耗品として利用可能なキットの内容物を少しずつ集めているところである。

新しい内容のキットの開発には再度協力教員や監修者が必要となること、又、年々増えている貸出状況を考えると、まずは従来からあるキットの複数化を実現

できればと考えている。

(3) 幅広い教科・学年に対応可能な内容に（教案や中身の改善）。

表5でみたように、現状ではキットが利用されている教科は、「総合的な学習」、「社会」、「歴史」が中心だが、開発の際に目指した内容の一つに、「教科教育や学年の枠にとどまらない汎用性が高い内容とする」があげられていた。今回の開発に協力いただいた教員は社会科を中心としていたため、今後この課題に取り組むにあたっては、従来の協力教員に加えた新たな協力者（附属校を基盤とした幅広い教科教員、研究者等）が必要となる。

(4) キット・パネルの周知（広報手段）。

これまでの貸出先へのアンケート調査などから、キット・パネルを知ったきっかけとしては、ミュージアムホームページの閲覧、下見見学会、下見見学、の順に多く、キット・パネルが紹介された研究会や、同僚、他校の教員からの紹介などの例もあった。下見見学会とは、毎年7月下旬から8月の夏休み期間中に小・中学校の教員を対象として開催しているもので、修学旅行、遠足、郊外学習、地域探検等、様々な目的に合わせた団体見学の相談・受付を行っている。見学会では、キット・パネルの紹介以外にも、平和講義体験や、ガイド解説つきの見学なども行っている。2014年度に関しては、この下見見学会でキット・パネルを知り、貸出を希望した学校が5校あり、7件の貸出を行った。キット・パネルの存在が徐々に広まっていることが伺えるが、来館者に対する広報に留まっている。

館外への広報活動を兼ねた取組としては、2014年7月29日（火）～8月3日（月）に開催された茨木市非核平和展への協力展示があげられる。ここではミュージアムの紹介を目的として、貸出教材キットの展示を行い、8月3日は現代（さいころくん）キットを使って来場者に向け各テーマの解説を実施した。今後も研究会や学会など、ミュージアムの外へ向けた新たな広報先の開拓も課題としてあげられ、またそれを新たな協力者となつた場としていくことも必要だろう。

おわりに

2011（平成23）年より小学校から実施が始まった新学習指導要領は、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力な



画像5 茨木市非核平和展で教材キットを使った学生による解説の様子

どの育成を重視している。これからの教育は、「ゆとり」でも、「詰め込み」でもなく、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けることを願うものである。その「生きる力」を育むためには、学校だけではなく、家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育にとりくむことがうたわれている。

立命館大学国際平和ミュージアムは、見学に来た子どもたちに、「戦争のない国や時代に生まれてよかった」という感想を持つだけで終わらせるのではなく、そこから過去の歴史と現在を生きる自身の人生との繋がりを意識し、「平和」の意味を考え、未来へ働きかける一人となるきっかけの場となることを目指している。貸出教材キットをその「きっかけのきっかけ」となるツールにすることを絶えず意識することが必要だろう。

「みて・かんじて・かんがえて・その一步をふみだそう」。この言葉を礎として、今後も貸出教材キットの研究・開発が期待される。

参考文献

- 高橋順一「博物館資料を用いたアウトリーチ・プログラムの新視点」森茂岳雄編『国立民族学博物館を活用した異文化理解教育のプログラム開発』国立民族学博物館調査報告56：247-260, 2005
- 小笠原喜康「博物館教育におけるキットの役割とその構成原理」チルドレンズ・ミュージアム研究会『子ども博物館楽校』(4), 2009, 34-48
- 文化庁 2012地域連携事業「授業に役立つ博物館活用ガイド」
文部科学省委託事業「環境学習プログラムの体系的開発に関する

